

「令和元年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取り組み」

明和町教育委員会

令和元年10月

本年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取り組みについて、以下の通りまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも考慮しながら、今後の教育の一層の充実を図ってまいります。

※ 文部科学省が用いている調査結果を示す表記を、多気郡基礎学力検討委員会(平成19～21年度設置、その後学力向上推進会議に移行)が用いていた表記に改め、平均正答率を4段階にて結果を示している。

80%～ おおむね満足できると考えられる

70%～79% 一定身につけているがさらに伸ばしたい

60%～69% 一部課題がある

～60% 課題がある

1 各教科の総合結果および状況

小学校

- **国語（知識活用一体）**について、今回出題された学習内容の知識・技能について一部課題がある。
- **算数（知識活用一体）**について、今回出題された学習内容の知識・技能について一部課題がある。

中学校

- **国語（知識活用一体）**について、今回出題された学習内容の知識・技能について一定身につけているがさらに伸ばしたい。
- **数学（知識活用一体）**について、今回出題された学習内容の知識・技能について課題がある。
- **英語（知識活用一体）**について、今回出題された学習内容の知識・技能について課題がある。
- **英語（知識活用一体）**について、今回出題された学習内容の知識・技能について課題がある。

2 各教科の領域別結果および状況

小学校

【国語】

- 「話すこと・聞くこと」の領域においては、一定身についているがさらに伸ばしたい。
- 「書くこと」の領域は、課題がある。
- 「読むこと」の領域においては、全国平均正答率は下回っているが、おおむね満足できると考えられる。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率は上回っているが、一部課題がある。

【算数】

- 「数と計算」「数量関係」の領域において全国平均正答率を上回っているが、一部課題がある。
- 「図形」の領域においては、全国平均正答率を上回り、一定身についているがさらに伸ばしたい。
- 「量と測定」については、全国平均正答率を上回っているが、課題がある。

中学校

【国語】

- 「話すこと・聞くこと」の領域においては、一定身についているがさらに伸ばしたい。
- 「書くこと」の領域においては、全国平均正答率は下回っているが、おおむね満足できると考えられる。
- 「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、一部課題がある。

【数学】

- 「数と式」の領域においては、全国平均正答率は上回っているが、一部課題がある。
- 「図形」の領域においては、一定身についているがさらに伸ばしたい。
- 「関数」の領域においては、課題がある。
- 「資料の活用」の領域においては、全国平均正答率を下回り、課題がある。

【英語】

- 「聞くこと」の領域において、全国平均正答率を下回り、一部課題がある。
- 「読むこと」「書くこと」の領域において、課題がある。

【英語（話すこと）】

- 「話すこと」の領域において、全国平均正答率を大きく下回り、課題がある。

3 各教科別の結果分析および状況

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 []内の記号は問題番号

小学校国語

(1) 調査問題の趣旨・内容

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(3領域1事項)に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で、資料をどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。
- 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】に、疑問に思ったことに対する答えになるように考えて書く。
- 畳職人への【インタビューの様子】の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。
- ことわざの使い方の例として適切なものを選択する。(習うより慣れよ)

(2) 領域別・設問別調査分析

話すこと・聞くこと

◇畳職人への【インタビューの様子】の四角アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択することができる。〔3ー〕

書くこと

◆公衆電話について調べたことを【報告する文章】の四角に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書くことに課題がある。〔1三〕

読むこと

◇食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の四角アに入る、「疑問に思ったこと」の①に対する答えとして適切なものを選択することができる。〔2ー(1)〕

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部イを、漢字を使って書き直すことができている。(友達にかぎらず)〔1四(1)〕

◆公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部アを、漢字を使って書き直すことに課題がある。(調査のたいしょう)〔1四(1)〕

◆公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部ウを、漢字を使って書き直すことに課題がある。(かんしんをもってもらいたい)〔1四(1)〕

小学校算数

(1) 調査問題の趣旨・内容

○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する。
- 残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する。
- 長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ。
- 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。

(2) 領域別・設問別調査分析

数と計算

◇2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書くことができる〔2(2)〕

◇ $350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書くことができる。〔3(1)〕

◆減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書くことに課題がある。〔3(2)〕

◆ $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶことに課題がある。〔3(4)〕

量と測定

◆減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書くことに課題がある。〔1(3)〕

図形

◇長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶことができる。〔1(1)〕

数量関係

◇2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書くことができる。〔2(2)〕

◆ $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶことに課題がある。〔3(4)〕

中学校国語

(1) 調査問題の趣旨・内容

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（3領域1事項）に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- （例）
- 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く。
 - 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く。
 - 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。
 - 語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する。

（2）領域別・設問別調査分析

書くこと

◇意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択することができる。〔3一〕

読むこと

◇「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書くことができる。〔1三〕

◆「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択することに課題がある。〔1二〕

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◆「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書くことに課題がある。〔1四〕

中学校数学

（1）調査問題の趣旨・内容

○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- （例）
- a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。
 - 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。
 - 証明で用いられている三角形の合同条件を書く。
 - 四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。
 - 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。
 - 図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ。

（2）領域別・設問別調査分析

図形

◇' $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求めることができる。
〔3〕

関数

◇証明で用いられている三角形の合同条件を書くことができる。〔7 (1)〕

◆' 冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶことに課題がある。〔6 (1)〕

◆冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明することに課題がある。〔6 (2)〕

資料の活用

◆「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明することに課題がある。〔8 (2)〕

◆図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶことに課題がある。〔8 (3)〕

中学校英語

(1) 調査問題の趣旨・内容

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている4領域（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 外国語理解の能力 ・ 概要や要点を聞き取る力【聞くこと】
・ 自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができるよう必要な情報を読み取る力【読むこと】
- 外国語表現の能力 ・ 文のつながりなどに注意して書く力【書くこと】
・ 問答したり意見を述べたりする力【話すこと】

(2) 領域別・設問別調査分析

聞くこと

◆来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書くことに課題がある。〔4〕

話すこと

◆カレンダーを見て、少女の誕生日を答えることに課題がある。〔1 (1)〕

◆テレビを見ている2人の子供の絵を見て、何をしているのか答えることに課題がある。〔1 (2)〕

◆ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続いていくように、即興で質問することに課題がある。〔2〕

読むこと

- ◆チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択することに課題がある。〔7〕
- ◆食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書くことに課題がある。〔8〕

書くこと

- ◆文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択することに課題がある。〔9（1）②〕
- ◆与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書くことに課題がある。〔9（2）②〕
- ◆与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書くことに課題がある。〔9（3）②〕
- ◆与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書くことに課題がある。〔9（3）③〕
- ◆学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書くことに課題がある。〔10〕

4 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果分析による児童生徒の学習及び

生活習慣等の状況（◇・・・強み ◆・・・弱み）

（1）生活習慣について

- ◇ほとんどの項目で90%を上回っており、児童生徒に基本的な生活習慣が身につけていることがうかがえる。これまでに町内の学校で積み重ねられてきた生活指導や食育の成果ともいえる。
- ◇小学校においては、「朝食を毎日食べている」児童の割合が全国平均を上回っている。中学校においては、全国平均と比較すると下回っているが、昨年度の割合と比較すると上昇している。今後も引き続き、食育を推進していく必要がある。
- ◆「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の項目においては、全国平均を大幅に下回っており（小学校－1.5ポイント 中学校－8.2ポイント）、生活指導の課題といえる。

（2）学習習慣について

- ◇小学校は、「自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の割合は全国平均を大きく上回っており、自主的な学習習慣が定着しつつあると言える。それらは学校質問紙の結果が示すように教職員間の共通理解の下に立った各校の取り組みの成果であると考えられる。
- ◆小中学校の児童生徒の普段の学習時間（1時間以上学習する児童）について、全国平均を下回る結果となった。今後、家庭教育の充実を推進していく必要がある。

（3）児童生徒の自己肯定感等について

- ◇小学校中学校ともに、「自分には、よいところがあると思う」割合が全国平均を上回っている。（小学校＋2.9ポイント 中学校＋3.5ポイント）また、学校質問紙においては、すべての小中学校で「児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った」とされているとあるように、教師が児童生徒を認め、褒めようとする姿勢に起因するものと考えられる。

（4）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

- ◇中学校ではすべての項目で全国平均は下回っているが、前年度の割合と比較すると上昇しており、授業改善が進んでいるといえる。
- ◆すべての項目で全国平均を下回っており、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」による授業改善について、小中学校共に見直していく必要がある。

(5) 地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

◇小中学校ともに、「今住んでいる地域の行事に参加している」の割合が全国平均を上回っており（小学校＋3.1ポイント 中学校＋6.7ポイント）、家庭や地域、社会とのつながりが強いことがうかがえる。特に中学校では、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」割合が全国平均に比べ、約8ポイント高く、地域や社会との密接なつながりがうかがえる。

◆小学生において、「(1)家の人と学校での出来事について話をする」「(2)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」割合が全国平均を下回っている。(1)－0.8ポイント(2)－2.6ポイント)小学校段階からの家庭、地域、社会とのかかわりを強化していく必要がある。

◆小中学校ともに「新聞を週に1～3回以上読んでいる」児童生徒の割合が低く、全国平均を下回っている。小学校においては、昨年度の割合と比較すると上昇しているが、小中学校ともに、新聞に触れる機会を増やしていく必要がある。

(7) 英語（外国語）の学習状況等について

◇小中学校ともに「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」児童の割合は全国平均より低くなっている。また、中学校生徒においては、「英語の勉強はよく分かる」の割合が、全国平均を大きく上回っている（＋3.8ポイント）にもかかわらず、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業についたりしたいと思う」の割合は全国平均を大きく下回っていることから、身に付けた知識を活用したいと意欲につながる英語教育の充実を図りたい。

◆設問60～64は中学校新学習指導要領（外国語科）にある5つの領域（聞くこと・読むこと・話すこと〔やり取り〕・話すこと〔発表〕・書くこと）に対応したものである。教科に関する調査においてはすべての領域において、全国平均正答率を下回っていることから、生徒質問紙調査においても、全ての領域の項目において下回っている。とくに、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」において、全国平均をそれぞれ、9.2ポイント、37.1ポイント、16.6ポイント下回っている。新学習指導要領が求めている資質・能力を意識した授業へと改善していく必要がある。

(8) 調査結果の活用

◇すべての学校において、本調査の分析結果を組織としての教育活動の改善に活用することができている。

◆すべての学校において、本調査の結果を保護者や地域の人たちに対する公表や説明をしていくことが必要である。

5 これまでの学力向上の取組の成果と課題

これまでの取組

- 全国学力・学習状況調査の自校採点による早期からの学習支援。
- ベネッセ総合学力調査の実施（小学校2年生～中学校2年生）と、結果分析による各校の学力向上に向けた取組。
- 町学力向上推進委員会における、全国学力・学習状況調査およびベネッセ総合学力調査の分析や学力向上の取組交流および実践報告会の実施。
- 多気郡学力向上推進会議における講師を招聘しての講演会の開催と実践交流。
- 指導主事による学校訪問と授業研究・事後検討会における指導・助言。
- hyper Q U結果分析による客観的な指標に基づくアセスメントをベースにした居心地のいい学級づくりの推進。

- 学力アドバンス事業による夏季休業中の補充学習の実施。

成果と課題

教科に関する調査

【小学校国語】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(友達に限らず)
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができる。
- △ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしまとめて書くことに課題がある。
- △ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。(ア 対象 ウ 関心)

【小学校算数】

- 台形について理解している。
- 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる。
- 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。
- △ 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。
- △ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。
- △ 示された除法の式の意味を理解することに課題がある。

【中学校国語】

- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる。
- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。
- △ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。
- △ 封筒の書き方を理解して書くことに課題がある。

【中学校数学】

- 平行移動の意味を理解している。
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
- △ グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することに課題がある。
- △ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- △ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

△ 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することに課題がある。

【中学校英語】

△ 聞いて把握した内容について、適切に応じることに課題がある。

△ まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することに課題がある。

△ 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることに課題がある。

△ 文の中で適切に接続詞を用いることに課題がある。

△ 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことに課題がある。

△ 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことに課題がある。

△ 与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことに課題がある。

△ 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題がある。

△ 月日に関する基本的な表現を理解して、応答することに課題がある。

△ 基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することに課題がある。

△ 聞いて把握した内容について、やり取りすることに課題がある。

6 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

□ 基本的な生活習慣は一定身に付きつつあるが、引き続き学級活動や食育の時間を通し、朝食の必要性を認識させるとともに、健全な食生活を自ら営むことができる知識や態度を養う。

□ 家庭学習の課題の与え方について共通理解のもとに立った取り組みを引き続き行い、小学校段階からの自主的な学習習慣の確立を図る。

□ すべての学校教育活動を通じ、児童生徒の自己肯定感、自己有用感を醸成する。

□ 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業改善を推進する。

・各学校において、「活用する力」に視点をあて、事象や情報を分析・解釈する力や、理由や方法を根拠を明らかにして記述・説明する力の育成を図り、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを進められるようにする。

・授業改善の取組において成果をあげている学校の検証を進め、学力向上推進委員会において交流し、各校の授業改善につなげられるようにする。

□ 小学校段階からの児童生徒の家庭、地域、社会とのかかわりを強化する。また、授業における新聞の活用の促進を通じ、児童生徒が新聞に触れる機会を増やす。

□ 中学校では新学習指導要領全面実施に向けて、スピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動（話すこと〔発表〕）や自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動（書くこと）を意識した授業へと改善していく。

- 引き続き、検証結果から学校全体で成果と課題を把握し、日常的な取組につなげる仕組みづくりをすすめるなど学力向上のPDCAサイクルを一層確立させる。（全職員での自校採点、授業改善サイクル支援ネットの活用等）

- 学力向上推進委員会において、全国学力・学習状況調査、総合学力検査の分析結果や学力向上の取組の交流を継続するとともに、より有効な内容・方法に改善していく。